

Economic Monday

エコノミック・マンデー

● 7月号は「フィリピン」

今年6月にフィリピンに「八戸学院カーテル高」を開設するなど、積極的にグローバル化を進める学校法人光星学院(八戸市、法官新一理事長)。フィリピン進出の先頭に立ってきた同法人の大谷真樹国際教育局長は11日までに、本紙取材に応じ、早ければ2019年にもフィリピンに「八戸学院第二カーテル高」(仮称)を開設する方向で、準備を進めていることを明らかにした。今後の事業の展望や国際化を進める狙いなどを聞いた。(聞き手・福田駿)

19年にも第二カーテル高



光星学院の国際化事業の展望を語る大谷真樹国際教育局長(八戸市内)

「ASEANの学校」

光星学院・大谷国際教育局長に聞く

—今後の国際化の展望は。 —
八戸学院カーテル高を開校したことに對する現地の反響が想像以上に大きく、日本語教育のニーズが高いことが分かった。こうした状況を受け、早ければ来年度までに、フィリピンのダバオン市に八戸学院第二カーテル高を開校する準備をしている。現存する現地の高校の校名とカリキュラムを変更して開設した。 —
—フィリピンへの展開を進める背景は。 —
青森県の少子化・高齢化には、県内だけでは対応できない。フィリピンは今後も人口の増加が見

現地反響 日本語教育、ニーズ高く

目指す
—フィリピン以外への進出は想定しているか。 —
八戸学院カーテル高を開校したことで、一つの海外展開のモデルができた。ラオスやインドネシアからも提携できないかという話が来ており、フィリピンだけで良いのかとの思いはある。ただ、あまり一気には展開できないので、慎重に検討を重ねていく。
—
八戸の教育機関という縛りから外れ、「ASEAN(東南アジア諸国連合)の学校」を目指す。(人材交流が進めば)ASEAN内で日本の存在感を高めることにもつながるだろう。
—
アジアでは、日本への渡航費や日本語を学ぶ費用がないという理由で、来日を諦める若者も数多くいる。(光星学院の子会社の)八戸学院グループの人材教育・紹介事業を通じ、積極的に人材交流を進めていきたい。